



発掘ガール

「ドキ土器!!発掘の秘密展」

- 日時 1月18日(土)～2月16日(日)
午前9時～午後5時
(毎週月曜日に休館)
- 会場 映像室ほか
- 内容 郡山女子大学
短期大学部学生
による発掘成果の展示。



※今年の9月の様子



おおやすばグルメ体験②
～奈良茶粥と蘇～

- 日時 1月19日(日)
午前10時～12時
- 内容 奈良時代の料理を作って試食します。
- 定員 30名
- 申込 要/12月19日(木)～
12月26日(木)までに定員に達した場合:抽選
12月26日(木)までに定員に達しなかった場合:先着



こども映画上映会②

- 日時 2月9日(日)
午前10時～12時
- 内容 ・おしりたんてい⑩
～ププッ ゆきやまのしろいかいぶつ?!～
・エリックカールコレクション
はらぺこあおむし
- 定員 50人(当日先着順)



こども映画上映会③

- 日時 3月9日(日)
午前10時～12時
- 内容 ・おしりたんてい⑩
～ププッ きえたおべんとうのなぞ?!～
・ガチャピン・ムックとまなぼう!
こうつうルール 他
- 定員 50人(当日先着順)



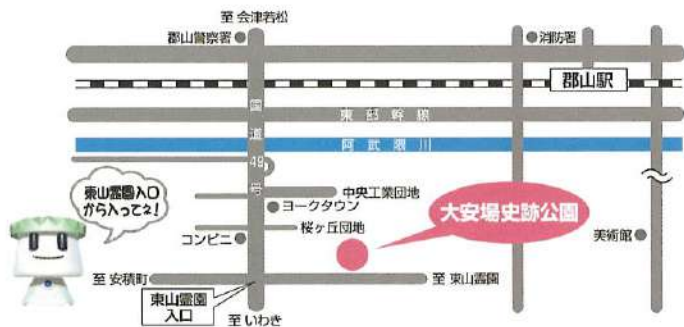
大安場史跡公園

(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

住所:福島県郡山市田村町大善寺宇大安場160番地
電話:024-965-1088 FAX:024-965-1090
Mail:oyasuba@bunka-manabi.or.jp
休館日:月曜日(月曜日が祝日の時はその翌日)
※公園は年中無休です。

ウェブサイトも
チェック!

大安場史跡公園 検索



まるさんかくしかく

タイトルはまるい石罫、さんかくは古墳の前方部、しかくは後方を表現しています。

あたままち
熱海町の歴史II

当施設の秋季企画展は、毎年、市内各地域の主要な遺跡を取り上げておりますが、今年度は「熱海町の歴史II」と題して開催しました。その内容を本紙面でも一部ご紹介いたします。熱海町は、市域の北西部に位置し、北の安達太良山から西の額取山、南東の藤田川上流域を占める広大なエリアです。「福島県埋蔵文化財包蔵地台帳」(福島県教育委員会)によれば、熱海町には87箇所の遺跡が登録されており、時代別ですと縄文時代が64カ所と圧倒的です。



滝ノ口遺跡現況(北側より)

たきくち
滝ノ口遺跡

所在地:熱海町中山字滝口 調査面積:約1,200㎡
調査主体:郡山市教育委員会 調査原因:農地整備
調査年:昭和62年[1987] 主な時代:縄文
主な遺構:住居跡・土坑・埋蔵物・溝跡・ピット

今回企画展でご紹介した遺跡の中で市街地から最も奥に位置し、JR中山宿駅の北北西約1km、五百川支流(三河沢川)の右岸にあります。約55,000㎡が遺跡範囲に指定され、標高476.5m付近から南東側に傾斜する谷地形の底部に立地し、現況は、階段状に水田が営まれています。土木工事による地形改変前は、かなりの傾斜があったことが窺え、溪谷内に立地していたと言えます。

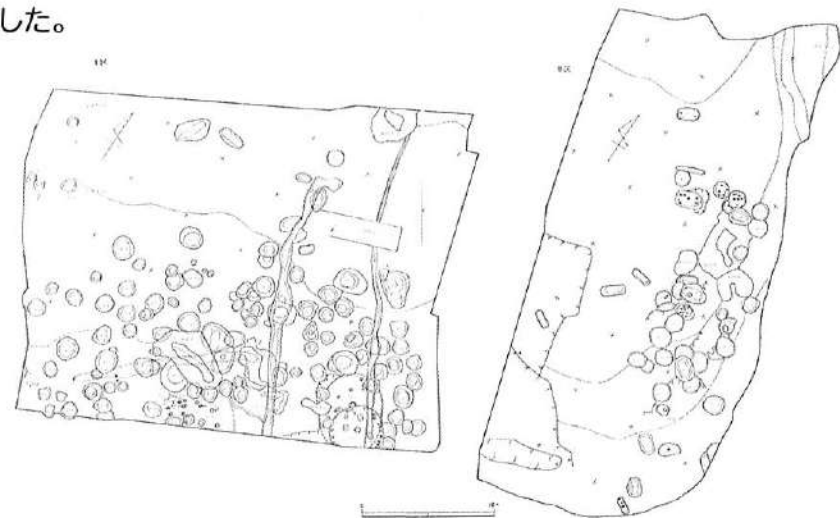


滝ノ口遺跡範囲図

「中山地区土地改良共同試行事業関連発掘調査報告書2 滝ノ口遺跡」より

遺構は、住居跡5棟・土坑150基・埋甕2基・溝跡3条・ピット19基・不明遺構1基・遺物包含層1カ所が発見されました。遺物には、縄文時代早期後半～弥生時代初頭の幅広い年代の土器がみえ、量的には後期中葉～晩期終末が最も多く出土しました。

遺構で最多の土坑は大別して円形と楕円形があり、出土遺物から円形は縄文時代後期の貯蔵穴、楕円形はより新しい時期の落とし穴と考えられます。



「中山地区土地改良共同試行事業関連発掘調査報告書2 滝ノ口遺跡」より



滝ノ口遺跡I区前景(西側より)

発掘調査状況(東側より)



事例の少なかった縄文時代晩期の竪穴住居跡の様子が明らかにされ、しかも、住居内からは一連と見られる土器群が発見されました。これらは、器種の構成もさることながら、「赤」「白」「黒」の色調の違いもみられ、貴重な資料と言えます。



滝ノ口遺跡I区1・2号住居跡(南側より)

たてこし 館ノ越遺跡

所在地：熱海町下伊豆島字館ノ越・新西池・六升時地内

調査主体：郡山市教育委員会

調査年：昭和63年・平成元年 [1988・1989]

主な遺構：館跡(郭・掘立柱建物跡・柱列跡・土坑・堀跡・溝跡・ピット)

調査面積：約 30,000 m²

調査原因：工業団地整備

主な時代：中世



館ノ越遺跡全景(西側より)

「山間部」の滝ノ口遺跡に対して「盆地部」の遺跡とも呼べる遺跡です。JR喜久田駅の西約2.6km、五百川支流藤田川右岸の河岸段丘上に位置し、現在は約17,500m²が遺跡範囲に指定されています。現況は、工業団地内の一区画及び調整池が整備されており、調査時の地形からは随分と改変されています。

遺構は、堀跡で区画される4カ所の郭から、掘立柱建物跡17棟・柱列跡2列・土坑5基・堀跡5条・溝跡3条・ピット群が発見されました。郭の構成は、南北方向の丘陵北端に一ノ郭があり、堀を隔てた南側に二・三ノ郭、その南西側には二重の堀で隔てられた四ノ郭が位置します。遺物は、陶器・磁器・石製品(石臼・砥石)・金属製品(刀子・銭)などが出土しましたが、調査面積に比して少ないため、この館跡が日常生活の場では無かったと考えられます。

館跡からは茶道具の「呉器手」碗が出土しています。中国から輸入された高級品です。館跡の主が利用していたとみられる逸品であり、主の経済力だけでなく入手先の確保といった人的つながりを想起させずにはいられない遺物と言えます。



館ノ越遺跡範囲画像
国土地理院HPより



「呉器手」碗

